

琉球病院

Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.03
2013.March

発行 発行者 琉球病院事務部長

院長

村上優（むらかみ・まさる）
1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry（司法精神医学研究所）長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長（併任）を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベルヤル会の副会長として活躍。



基本理念

看護部長 小池 恭栄

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

当院ではアルコール地域関連職種研修や児童思春期精神医学、発達障害、認知症の教育研修など多彩な研修を定期的に行っています。今回は、精神看護の特徴的な拘束や包括的暴力防止プログラム(CVPPP)についての実技研修を紹介します。

ここ数年、医療現場における暴力が取り上げられるようになり、研究テーマとして取り組まれることも多くなりました。CVPPPは、これまで暴力への介入方法が示されていないために、時に過剰な対応に陥りがちであった臨床現場に向けて、援助者としての視点で開発されたプログラムです。患者の暴力に関するリスクアセスメントとマネージメントについて理解を深め、患者及び医療関係者の安全を図り、効果的な暴力への対処能力を高めることを目標としており、研修では講義と実技を行っています。CVPPPは平成16年に公表されて以来、全国各地で研修が開催され、参加者も看護師のみならず、医師、PSW等、多岐にわたっています。当院では、今年度4月よりCVPPPチームを立ち上げ、月1回の会議の中で研修の運営方法の検討やチームのスキルアップを図っています。

当院には、院外でも指導できるインストラクターが4名おり、院内外の医療関係者を対象に研修を開催し、普及を図っています。さらに、院内で指導できるトレーナーは20名程おり、院内研修での指導にあたっています。

平成24年度の活動は、院外8つの病院の看護師を対象に計22名、院内の新人看護師等も計30名が研修を受けました。研修を受けた研修生からのレポートには、ほとんどの人が、「暴力に対する考え方に変化があり、各段階に患者の状態や背景を把握して、リスクアセスメントし、専門的に介入することが重要であると学んだ」という内容でした。さらに、今年度は、他病院からの依頼もあり職員を対象に出張の講義や実技指導も行っています。3月には、大学での講義も予定しています。次年度も院外トレーナー養成コース研修を計画いたしますので、琉球病院のホームページや病院からの案内をご覧ください。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい児 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線/浜田」バス下車徒歩3分
自動車/ 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟棟建替整備の動き
- 進捗状況：基本設計終了（現在実施設計中）
 - 病棟完成予定 平成26年10月 ●作業療法棟完成予定 平成27年7月
- あしびな（精神科作業療法棟）引越 平成25年2月25日（月）

教育・研修

- 行動療法研修会 平成25年3月2日（土）講師：立命館大学 谷晋二 先生（詳細は裏面参照）
- 趣旨：1年間の看護の振り返りと近隣施設との交流・連携を深めるために行います。
- 琉球看護セミナー 平成25年3月14日（木）18:00～19:00 「認知症看護」対象：医療・保健・福祉関係機関
- TV会議看護セミナー 平成25年3月19日（火）17:30～18:30
「精神科薬物療法と看護」講師：天神亜美（精神科認定看護師）

●地域医療連携室だより

・活動状況 当院での受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として、地域医療連携室があります。精神一般、認知症、アルコール治療、小児思春期等の診療案内、また、治療抵抗性統合失調症治療で効果のあるクロザピンによる治療、修正型電気けいれん療法(m-ECT)、セカンドオピニオン等各種相談に応じております。

お困りのことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。



空床状況

精神科病棟
8床

認知症
1床

アルコール
1床

児童思春期ユニット
2床

2月20日現在

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性総合失調室に対して、平成22年1例目の投与を開始し、全症例は68例となりました。平成25年1月の新規導入は3例で、治療経過も良好です。退院数も20例を超えました。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成24年12月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

こども心療科とは

当院では地域の関連機関と連携し、外来及び入院を通して発達障がい・情緒障がいをもつ子ども・ご家族への専門医療の提供を行っています。

研修会・勉強会の開催について

* 勉強会：小児思春期の精神医療③

【開催日】平成25年3月19日（火）17:30～ 【開催場所】 琉球病院TV会議室

* 研修会：行動療法研修会 講師：谷晋二先生（立命館大学）

【開催日】平成25年3月2日（土）

10:00～12:00行動療法概論 13:00～17:00 ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）

【定員】50名（先着順）参加費無料

◎事前申し込みが必要です。以下のメールにてお申込み下さい。

【申し込み・問い合わせ先】 kenshu-child@ryu2.hosp.go.jp 心理療法室 野村



認知症医療

役割と診療状況

認知症の患者さんは、高齢であることから様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50代～60代の若年の方に分かれる傾向があります。

身体的な問題については、常勤内科医と精神科医が診察を行い、可能な限り治療を継続して行いながら、主問題である認知症のBPSDに対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご連絡ください。

最近、冷え込む日と暖かい日の繰り返しで、若干名の患者さんが体調を崩されることがありましたが、1月31日に皆さん元気に「お花見」に行ってきました！みなさんとともに、素敵な笑顔でした。



アルコール・薬物依存医療

研修会開催について

平成24年度のアルコール関連研修は終了しました。平成25年度はブリーフ・インターベンション研修とアルコール地域職員研修を企画中です。

アルコール看護のツボ小冊子について

アスク「季刊Be!」に連載した「依存症看護のツボ」を小冊子にしました。内容は琉球病院のアルコール看護と沖縄の個別性、病気や専門治療、早期介入です。3月中旬発刊予定です。

包括的地域精神医療（ACT）

当院の訪問看護は地域で生活している利用者宅の訪問はもちろんですが、入院中から病棟へ出向き、ケア会議へ参加を行い、退院後の関係構築のための関わりを実施しています。

また、必要時に、地域でのケア会議へ出向き、地域の支援者とのサービス調整も行います。訪問地域が遠距離で直接のサービスができないため、訪問看護だけでは完結できない状況もあり、地域の社会資源の活用、他職種との協働、ネットワークの構築を大切にしています。

臨床研究部の活動状況

【二日酔い運転に関する検証①】～物質使用障害・嗜癖行動研究部より～

ビール1本と泡盛（30度）1合を飲んだ場合、アルコールが体内から消失するまで、実際はどれくらいの時間がかかるのでしょうか？当院で2名の被験者にビール500ml+泡盛30度を飲んでもらい、呼気濃度0.15mg/L未満になるまでにどの程度時間を要するのか検証しました。その結果、被験者Aは7時間、被験者Bは8時間半を要しました。この程度のお酒を飲んで7時間後に車で出勤した場合飲酒運転で検挙される可能性があることが分かりました。また、体内からアルコールが完全に抜けるまでには最低でも10時間以上かかるため、朝から運転をする場合には、前日の飲酒量を控える必要があります。

